

## 地域医療貢献奨励賞 受賞

2月20日、東京都の緊急事態宣言を受け、東京と三角町をつなぎリモートで行われた第14回「地域医療貢献奨励賞」表彰式。受賞したのは、佐藤立行さん93歳。昭和60年、戸馳島の無医地区に開業して以来、住民に愛されながら診療を続けている。「受賞の知らせを聞いて驚きましたが、ありがたく頂くことにしました。」と笑顔。

## 代々続く医者の家系

昭和2年、郡浦で並河医院の五男として誕生。代々漢方医の家系だったが、明治時代に熊本医学校ができると祖父の恭安が西洋医学の道へ。同窓には後に日本細菌学の父と呼ばれる北里柴三郎もいた。父と長兄が軍医として従軍し、自身も海軍の軍医を志したが、在学中に終戦。「戦時中は空襲が多く、毎晩防空壕に避難しました。医学校の校舎も焼け、戦後は熊本城の中にあつた陸軍兵舎が仮校舎だったんですよ。」と懐かしむ。

# 病診連携の要として 地域の安心を支える。



佐藤 立行 Sato Tachiyuki

昭和2年生まれ 佐藤医院(三角町戸馳)院長  
昭和25年 熊本医科大(現熊本大学医学部)医学専門部 卒業  
昭和28年 国立戸馳療養所勤務  
昭和57年 同副院長に就任  
昭和60年 佐藤医院を開業  
以来地域医療に深く携わる  
三角町の教育委員も務め平成14年には文部科学大臣表彰も受賞



長年連れ添う妻の圭子さんと



コロナ禍を機にリモート診察も始めた



地元から贈られた受賞を祝う横断幕と胡蝶蘭



オンラインで行われた表彰式であいさつ

## 戸馳島との縁

卒業後は、国民病といわれていた結核の治療に携わるため、戸馳の国立療養所で医師となる。「当時は結核患者が多く、肺の一部を切る手術も毎週のように行われていて、私は内科医として気管に管を入れたり麻酔をしたり。先進的な療養所があつた福岡に研修にも行きました。」療養所に勤務しているとき、後に三角町長として戸馳大橋を架ける、佐藤鶴亀(戸馳村長の娘、圭子)さんと結婚。佐藤家の養子となった。

## 地域のかかりつけ医に

特効薬が開発され「治る病」になつた結核。全国の療養所が統合される中、佐藤さんは「地域に核となる病院を残したい」と各方面との協議に奔走。「藤原所長と一緒に厚生省や町役場、医師会の先生方とも話し合いを重ねました。」と振り返る。その結果、昭和57年に国立療養所三角病院として現在の済生会みすみ病院の場所に移転し、残った。

「患者さんのためには病診連携が一番大事です。まずは身近なかかりつけ医で診察し、必要に応じて大きな病院に紹介する。当時は連携が少なかったのですが、自分が戸馳島でやろうと思ひ、59歳で医院を開業したんです。」30年近く佐藤医院に通う橋本秀市さんは「長年佐藤先生に診てもらっているのです、安心で心強く、ありがたいです。」と話す。医師として69年。これからも住民の安心と健康を支えていく。

# 宇輝人

vol.58